

価値創出プロセス

日本新薬のDNA

日本新薬の未来戦略

経営理念

人々の健康と豊かな生活創りに貢献する

インパクト

ペイシェント・セントリシティ
～患者さんご家族に
生きる喜びを届ける

医薬品業界 を取り巻く 外部環境

- 研究開発の高度化
- 医療の発達による
健康寿命の延伸
- 医療アクセスの向上
- 働き方の多様化

インプット

人的資本

- 従業員一人あたりの
基本研修時間：10.2時間
- 従業員一人あたりの
手上げ研修時間：38.3時間
- 従業員一人あたりの
教育研修費：85千円

知的資本

- 医薬品技術（核酸・低分子）
- 研究開発費：31,676百万円
- 特許保有件数：1,022件
- パイプラインの開発品目：
国内19件、海外6件

社会・関係資本

- 共同研究・委託研究などの数：
33件
- 提携会社：導入17社、導出10社
- 子どもの未来への貢献：
日本新薬子ども文学賞での絵
本提供：約20,000冊
日本新薬きらきら未来ゴーで
の絵本貸し出し：5,513冊

製造資本

- 小田原総合製剤工場
核酸原薬精製棟
- 治験原薬製造棟
- 設備投資額：16,430百万円

財務資本

- 連結資本合計：
220,534百万円
（親会社所有者帰属持分比率：
83.6%）
- 連結資産合計：
263,404百万円

自然資本

- エネルギー使用量（電気）：
17,884千kWh
- エネルギー使用量
（上水＋井水）：127千m³

日本新薬（医薬品事業）のビジネスモデル

*機能食品事業のビジネスモデルはP.43参照

グローバルに独自性を追求

いまだ治療ニーズが満たされていない領域・分野に
価値ある医薬品やサービスを世界に提供

Kyoto

自社創薬

導入

PLCM

基盤技術・オープンイノベーション

低分子医薬・核酸医薬・新たな創薬モダリティ・AI創薬

知的財産

→ P.41

研究

→ P.36

開発

→ P.36

営業

→ P.46

メディカルアフェアーズ

→ P.48

サプライチェーン・信頼性保証

→ P.49

第七次5か年中期経営計画



イノベーションの創出による健康未来の実現



多様な人財の育成と社員の
ウェルビーイングの実現



社会課題の解決と
コミュニティとの共生



地球環境保護への
取り組み強化



ガバナンスの強化

マテリアリティ

アウトプット（医薬品事業）

売上収益 **1,482億5千5百万円**（全社）

製品

・血液内科



肝類洞閉塞症候群
治療剤

デファイテリオ



骨髄異形成症候群・
急性骨髄性白血病治療剤

ビダーザ

・難病、希少疾患



ドラベ症候群/レノックス・
ガストー症候群に伴う
てんかん発作治療剤

フィンテプラ



デュシェンヌ型
筋ジストロフィー治療剤

ビルテプソ



肺動脈性肺高血圧症/慢性血
栓塞性肺高血圧症治療剤

ウプトラビ

・婦人科



鉄欠乏性貧血治療剤

モノヴァー



前立腺肥大症に伴う
排尿障害改善剤

サルディア

ソリューション

肺高血圧症患者さん向け
サポートプログラム「シェルバ」

ビルテプソ未承認国
提供プログラム



アウトカム



患者さん、生活者、医療関係者

→ P.36、46、49

- 患者さんの社会参画
- 開発パイプラインの拡充：2件
- 疾患啓発Web市民講座：3件
- 未来の医療への貢献 公募研究助成：20件
- ウプトラビの販売国数：約70カ国
- 介助負担の軽減
- QOLの向上

→ 症状・介助負担の軽減／心身ともに健やかな
生き方の提供



株主

→ P.30

- TSR（過去5年（累積））：-37.9%
- TSR（過去10年（累積））：167.0%
- ROE（2023年度）：12.4%

→ 企業価値の向上



社員

→ P.52

- 「選ばれる会社」「選ばれる社員」の実現
- 競争力を生み出す人材
（変革、グローバル、プロフェッショナル）
- エンゲージメントサーベイ ポジティブ回答率：70%
- NS Mindの意識度：73% 実践度：66%

→ “働きやすさ”の先にある“働きがい”と“生きがい”



社会（地域社会、取引先など）

→ P.49、62

- 地域社会からの信頼性向上
- 取引先との関係性強化

→ 必要な人に適切な医薬品を届けることで、社会や
取引先にとって必要な存在であり続ける



環境

→ P.64

- 温室効果ガス排出量（Scope1、2）
2021年度比：24.8%削減
- 水使用量の削減 2021年度比：23.0%削減

→ 環境型社会の実現

価値創出の源泉

日本新薬グループは、人財や知的財産といった自社が持つ資本と、医療関係者やサプライヤーなど社外のステークホルダーの皆さまから提供される資本を源泉に、持続的な価値の創出を目指しています。

	 財務資本	 人的資本		 知的・製造資本	 社会・関係資本
基本的な考え方	資本構成、資本コストを意識し、適正化を図る 高品質な医薬品を安定して供給するため、研究開発体制を強化して開発パイプラインの拡充に取り組んでいます。そのための運転資金を確保し、必要な投資を積極的に行っています。グローバル事業の展開に適応した、激化する競争に耐え得る組織体制を構築し、開発パイプラインを拡充（重層化）するために戦略的な研究開発投資を実施するとともに、ステークホルダーへの利益還元についても資本構成、資本コストを意識しながら実行しています。また、財務の視点だけでなく非財務の視点として、サステナビリティ経営を推進することにより、市場からの信頼を獲得し、資本コストの適正化を図っています。	社員の多様性を尊重し、一人ひとりが前向きにチャレンジし成長する機会を提供 特長ある製品を一刻も早く、世界中の人に届けるためには、私たち社員一人ひとりがこれまで以上に成長し、それぞれの個性や強みを生かしてともに働き、会社全体が一つのチームとなってパフォーマンスを最大限発揮することが必要です。当社では、社員の多様性を尊重し、一人ひとりが前向きにチャレンジし成長する機会を提供しています。持続的成長の原動力は「人財」であると考え、人的資本経営の推進に取り組んでいます。		新規モダリティや研究開発で得られる成果を知的財産で保護し、グローバル供給体制の構築に取り組む 他社が手掛けない領域における研究開発、創薬やグローバル化を進めるため、知的財産保護および活用を通じて自社事業の優位性を強化し、継続的な企業価値向上を図っています。そのために、生産設備の拡充・合理化および研究開発力の強化などを目的とし、資本コストも意識して、研究開発投資と設備投資を実施しています。小田原総合製剤工場では、IoTを品質改善や予防保全に活用するコネクテッドファクトリーの構築に向けた取り組みをスタートさせています。	患者さん中心の事業活動を推進 病気でお困りの患者さんやそのご家族に寄り添い、その声を聞くことで薬剤のみならず本当に必要としているサポートを提供します。 パートナー企業やさまざまなステークホルダーとの協創を図るとともに、あらゆる人の人権を尊重し公平公正な関係性を強化し、社会からの信頼を得るために持続的に成長し価値を提供していきます。
認識している課題	● キャッシュ・フローマネジメントの強化 ● ROIC 経営の実践 ● 財務価値と非財務価値のさらなる融合	● 変革・グローバル・DX 人財の不足 ● 人財育成のための環境・体制の構築 ● キャリア自律		● 新たなモダリティの獲得 ● グローバル供給体制の構築 ● 品質改善や予防保全へのIoT活用 ● 精度の高い需要予測や安定供給に影響する環境変化・脅威の検知へのAIの活用 ● 新たなサービスを創造するための異業種の技術	● 患者さんや顧客のニーズ収集 ● 早期のグローバル体制の拡充 ● 新たなサービスを創造するための異業種の販売チャネル ● 周辺領域におけるサポート提供の拡充
成長戦略	● M&Aを含めた成長領域への積極投資 ● ROIC等の効率性指標の中期目標の設定 ● 資産の効率的な活用と事業再構築による事業ポートフォリオ変革 ● 非財務要素のROICへのさらなる取り込み	● NS Mindの実践 ● 多様な人財ポートフォリオの構築 ● 外国籍従業員、女性従業員など、多様な人財の活躍推進 ● 従業員エンゲージメントの向上 ● キャリア施策の充実		● 高水準の研究開発投資の継続 ● オープンイノベーションを活用した低分子・核酸医薬・新規モダリティの研究開発の推進 ● 日米中以外への製品・サービスの供給を目指したグローバル化の推進 ● 核酸原薬精製棟を活用したグローバルへの安定供給 ● ペイシエント・セントリシティに基づく研究開発の推進	● 患者さんや顧客が何を考え、どのように行動しているか知るための活動 ● アカデミア、ベンチャー等、必要な技術を持った企業との協業 ● 周辺領域のサポートを提供するための異業種とのコラボレーション ● 情報開示・広報活動の充実（日本新薬の世間への認知拡大）
参照先	財務・資本戦略 ➡P.30	多様な人財の育成と社員のウェルビーイングの実現 ➡P.52		特長（独自性）のある製品とサービスの創出を通じた人々の健康への貢献 ➡P.36 特集：私たち日本新薬のグローバル展開と2035年の「ありたい姿」 ➡P.8	社会課題の解決とコミュニティとの共生 ➡P.60